



JFE

JFEグループ  
インベスターズ・ミーティング

2019年8月9日  
JFEホールディングス株式会社

1. JFEグループ2019年度第1四半期決算  
および2019年度業績見通し
2. 配当について

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、提示された予測等は説明会の時点で入手された情報に基づくものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控え下さいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

JFEグループ  
2019年度 第1四半期決算



(億円)	2018年度 第1四半期	2019年度 第1四半期	増減
売上収益	9,278	9,274	▲4
<b>事業利益</b>	<b>833</b>	<b>307</b>	<b>▲526</b>
金融損益	▲32	▲32	0
セグメント利益	801	275	▲526
個別開示項目	-	-	0
税引前利益	801	275	▲526
税金費用・ 非支配持分帰属当期利益	▲233	▲77	156
親会社の所有者に帰属する 当期利益	567	197	▲370

事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの

セグメント利益：事業利益に金融損益を含めたもの



(億円)	2018年度 第1四半期	2019年度 第1四半期	増減
鉄鋼事業	6,930	6,666	▲264
エンジニアリング事業	928	1,132	204
商社事業	2,872	2,866	▲6
調整額	▲1,453	▲1,392	61
売上収益	9,278	9,274	▲4
事業利益 (A)	833	307	▲526
金融損益 (B)	▲32	▲32	0
セグメント利益			
鉄鋼事業	641	145	▲496
エンジニアリング事業	20	49	29
商社事業	102	79	▲23
調整額	37	0	▲37
合計 (A+B)	801	275	▲526

JFEグループ  
2019年度 連結業績見通し



JFE

(億円)	2018年度実績		2019年度見通し		増減	
	上期※	年間	上期	年間	上期	年間
売上収益	18,923	38,736	18,700	39,600	▲223	864
<b>事業利益</b>	<b>1,546</b>	<b>2,320</b>	<b>550</b>	<b>1,400</b>	<b>▲996</b>	<b>▲920</b>
金融損益	▲62	▲125	▲50	▲150	12	▲25
セグメント利益	1,484	2,195	500	1,250	▲984	▲945
個別開示項目	–	▲102	–	–	0	102
税引前利益	1,484	2,093	500	1,250	▲984	▲843
税金費用・ 非支配持分帰属当期利益	▲396	▲458	▲150	▲350	246	108
親会社の所有者に帰属する 当期利益	1,088	1,635	350	900	▲738	▲735

前回 (5/14) 事業利益 (年間) 見通し 1,800億円

※2018年度上期のIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります。



## 2019年度 業績見通し セグメント別

JFE

(億円)	2018年度実績		2019年度見通し		増減	
	上期※	年間	上期	年間	上期	年間
鉄鋼事業	14,025	28,306	14,000	29,000	▲25	694
エンジニアリング事業	2,021	4,858	2,300	5,200	279	342
商社事業	5,706	11,258	5,530	12,000	▲176	742
調整額	▲2,829	▲5,686	▲3,130	▲6,600	▲301	▲914
売上収益	18,923	38,736	18,700	39,600	▲223	864
<b>事業利益 (A)</b>	<b>1,546</b>	<b>2,320</b>	<b>550</b>	<b>1,400</b>	<b>▲996</b>	<b>▲920</b>
金融損益 (B)	▲62	▲125	▲50	▲150	12	▲25
セグメント利益						
鉄鋼事業	1,173	1,613	260	700	▲913	▲913
エンジニアリング事業	77	201	90	230	13	29
商社事業	193	357	150	360	▲43	3
調整額	39	23	0	▲40	▲39	▲63
合計 (A+B)	1,484	2,195	500	1,250	▲984	▲945

※2018年度上期のIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります。



JFEスチール  
2019年度 第1四半期決算



	単位	2018年度					2019年度
		4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	年間	4-6月
単独粗鋼生産量	万t	710	694	639	588	2,631	700
連結粗鋼生産量	万t	751	733	679	625	2,788	736
単独鋼材出荷量	万t	613	593	624	548	2,378	585
鋼材輸出比率 (単独・金額ベース)	%	42.4	44.2	43.5	36.0	41.7	39.9
鋼材平均価格	千円/t	79.3	81.9	82.9	82.0	81.5	80.4
為替レート	円/ドル	108.1	110.9	113.4	110.3	110.7	110.7
期末為替レート	円/ドル	110.5	113.6	111.0	111.0	111.0	107.8



2018年度4-6月⇒2019年度4-6月  
セグメント利益 ▲496億円内訳

JFE

JFEスチール	2018年度					2019年度	増減 対前年同期
	4-6月	7-9月※	10-12月※	1-3月※	年間	4-6月	
セグメント利益	<b>641</b>	532	458	▲18	1,613	<b>145</b>	<b>▲496</b>

- コスト + 60
- 数量・構成 ▲ 60
- 販価・原料 ▲ 150
- 棚卸資産評価差等 ▲ 170
- その他 ▲ 176

⇒ 棚卸資産評価差 ▲170 (+110→▲60)  
原料キャリアオーバー影響 +60 (▲50→+10)  
為替換算差 ▲60 (+30→▲30)

**合計 ▲ 496**

※2018年度7-9月、10-12月、1-3月のIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります。

19年度4-6月期実績セグメント利益は、前年同期比で▲496億円の145億円となった。内訳は以下の通り。

◆コスト：+60億円

◆数量・構成：▲60億円

高炉トラブルの解消により粗鋼生産は700万トンに回復するも前年同期比では粗鋼・出荷ともにマイナス。  
粗鋼生産▲10万t（710⇒700万t）、出荷量▲28万t（613⇒585万t）

◆販価・原料（スプレッド）：▲150億円（≒鋼材トンあたり：▲2,600円）

輸出事況の下落及び主原料価格の上昇によりスプレッドが縮小した。

◆棚卸資産評価差等：▲170億円

◆その他：▲176億円

- ・資材費、物流費、外注費等の諸物価上昇（▲70億円）
- ・海外を中心としたグループ会社収益の減少（▲50億円）
- ・基盤整備推進に伴う償却費増（▲20億円） 等

JFEスチール  
2019年度 業績見通し

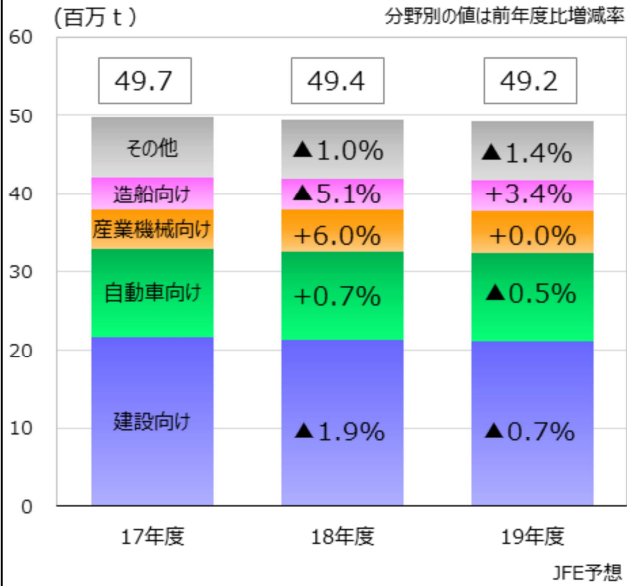


# 足下の事業環境認識（国内）

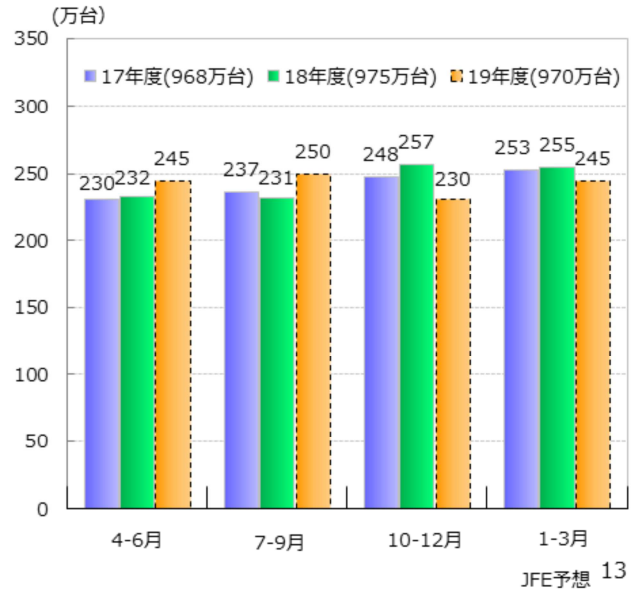
JFE

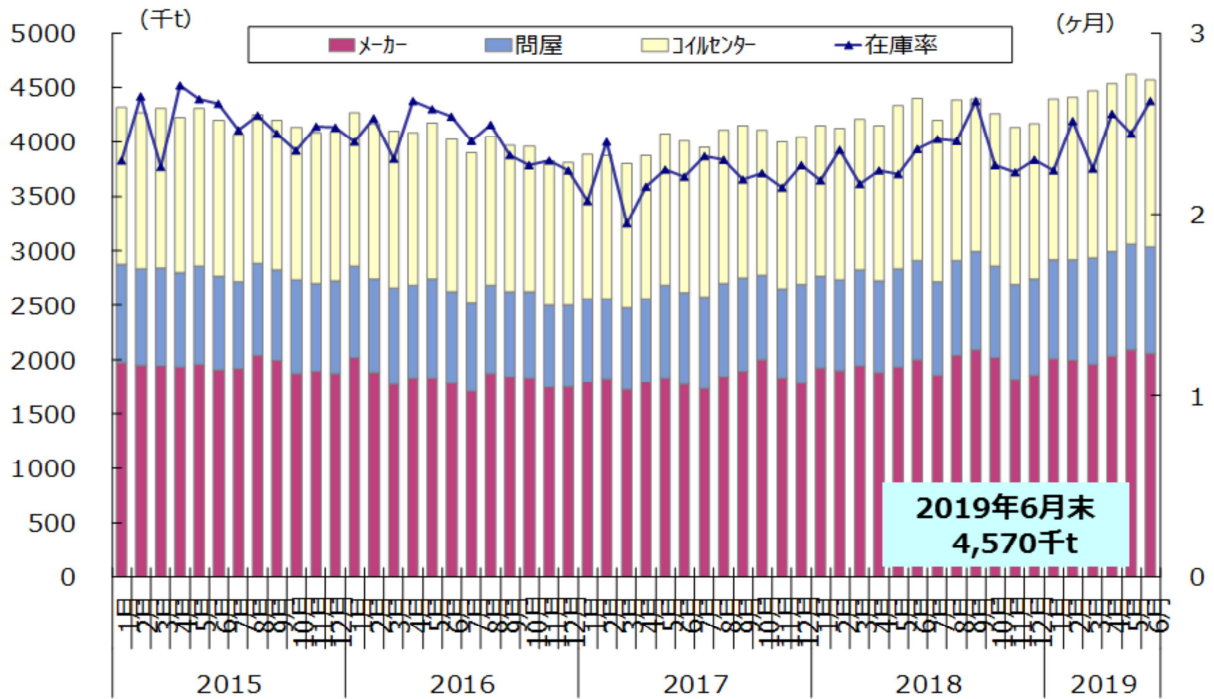
- 19年度の国内普通鋼材消費は前年度比-0.4%の微減の見込み。
- 国内鋼材需要は、製造業向けを中心に底堅さはあるものの建産機、建築等一部で減速感があり、分野により濃淡が出てきている。

## 【普通鋼鋼材消費見通し】



## 【自動車生産台数見通し】





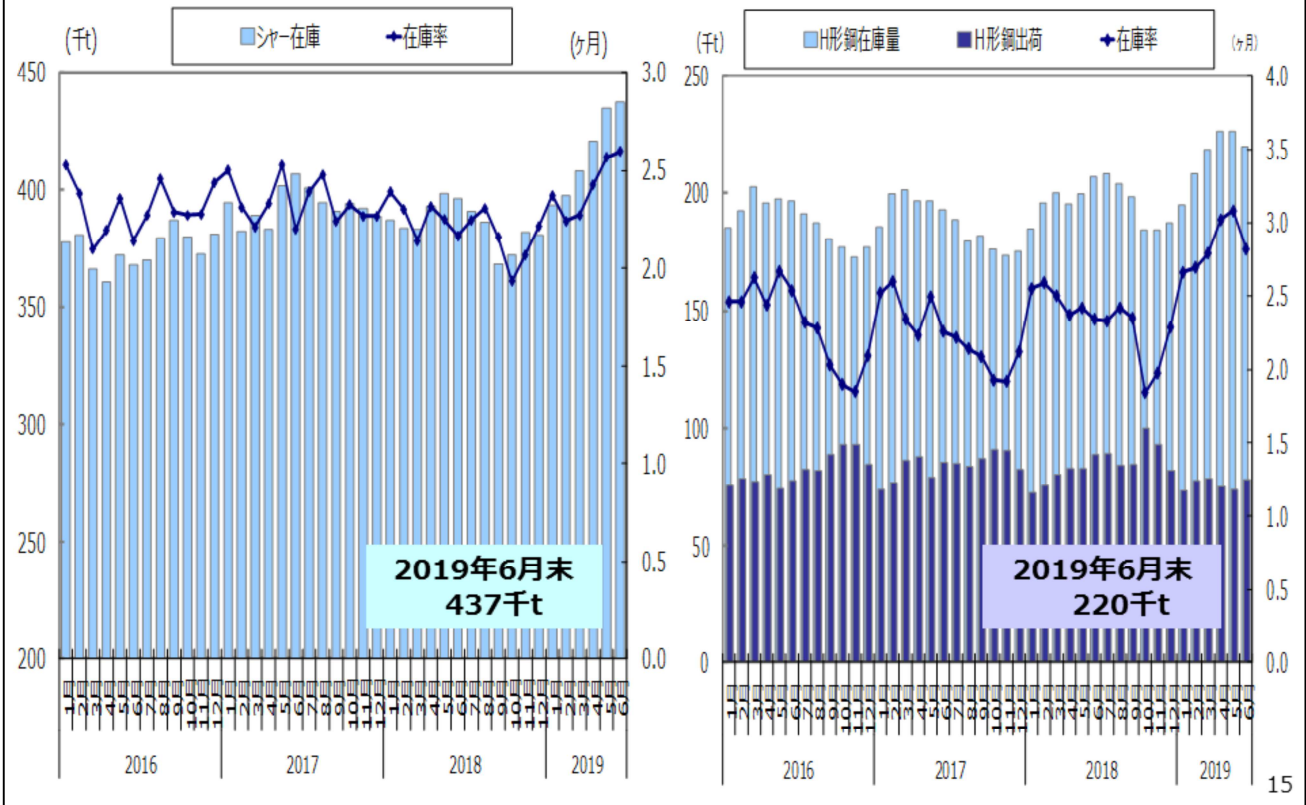
6月末の薄板3品在庫は457.0万t（前月比▽5.3万t、前年同月比+16.3万t）。

国内鉄鋼需要は総じて堅調なもの分野により需要に濃淡が出てきているため、先行きの需要変化に注意を払っている。

輸入材の増加等もあり足元は在庫は高水準で推移しているが、多少時間を要しながらも適正在庫への調整が進むと考えている。



JFE



【厚板シャー】（出典：厚板シャーリング工業組合）

6月末の厚板シャー在庫は43.7万t（前月比+0.2万t、前年同月比+4.1万t）。

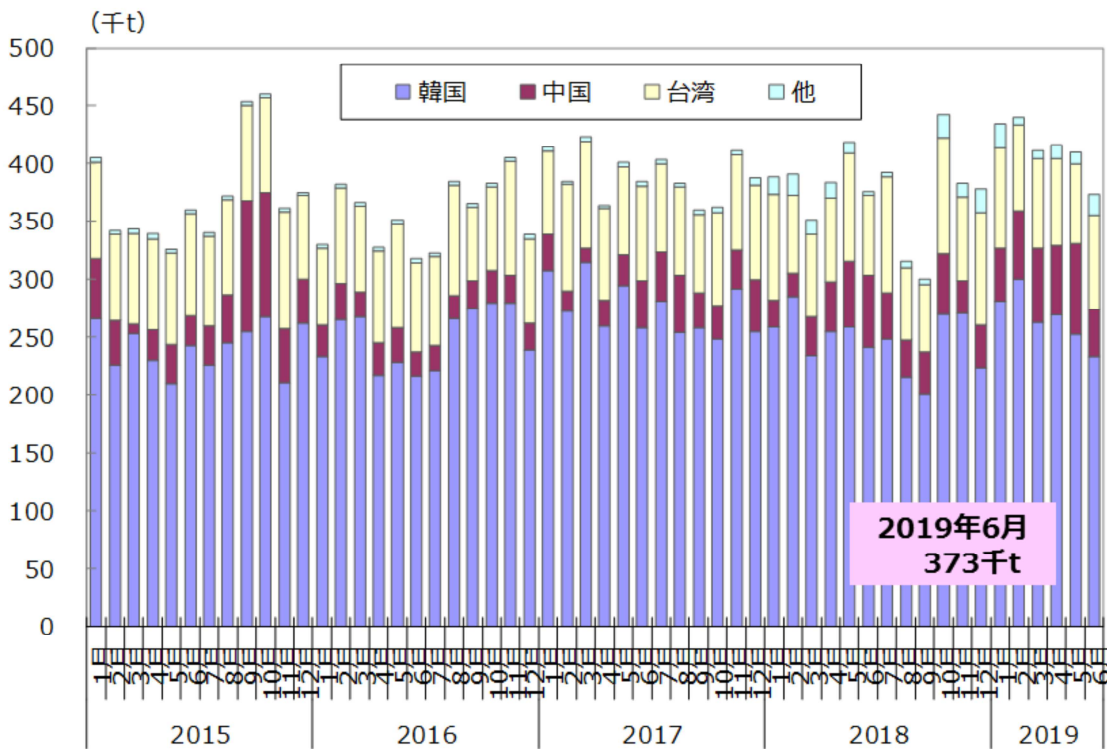
建築の工期遅れや建機向け需要に弱含みの兆候が見られ、在庫が増加している。今後の動向を注視する。

【H形鋼】（出典：ときわ会）

6月末のH形鋼在庫は22.0万t（前月比▽0.6万t、前年同月比+1.3万t）。

6月は入庫減により7ヶ月ぶりに在庫減、在庫率も3ヶ月ぶりに2ヶ月台に低下。

在庫は依然高水準も適正化に向かっていると考えている。



6月の普通鋼鋼材輸入量は37.3万 t（前月比▽3.7万 t。前年同月比▽0.3万 t）

5月以降減少してきているが、引き続き一定量が入ってきている状況。アジア市況が低迷していることから、日本へ一部鋼材（中国・韓国）が流入していると想定しており、今後の動向を注視する。



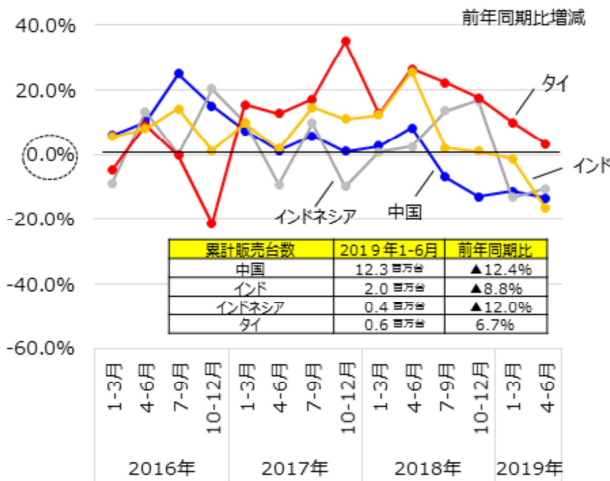


# 足下の事業環境認識（海外）

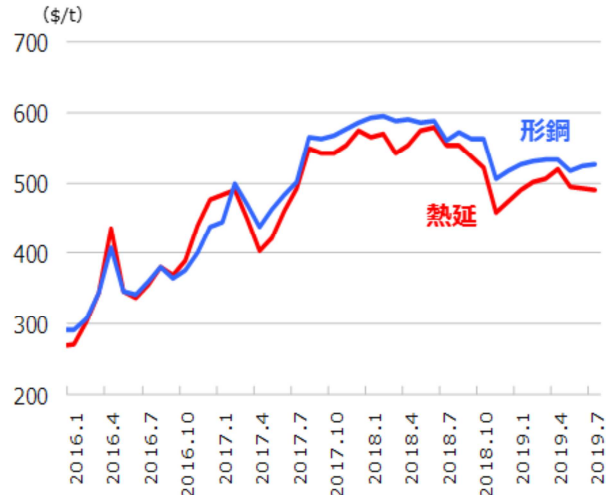
JFE

- 米中貿易摩擦の影響等により、海外鋼材需要は一部の分野で減速感がみられる。
- アジアの自動車販売台数は総じて減速傾向。
- 中国鋼材市況は、政府の景気刺激策による需要の持ち直し等はあるも、足下は揉み合いの状況。今後の動向を注視する。

### 【自動車販売台数推移】



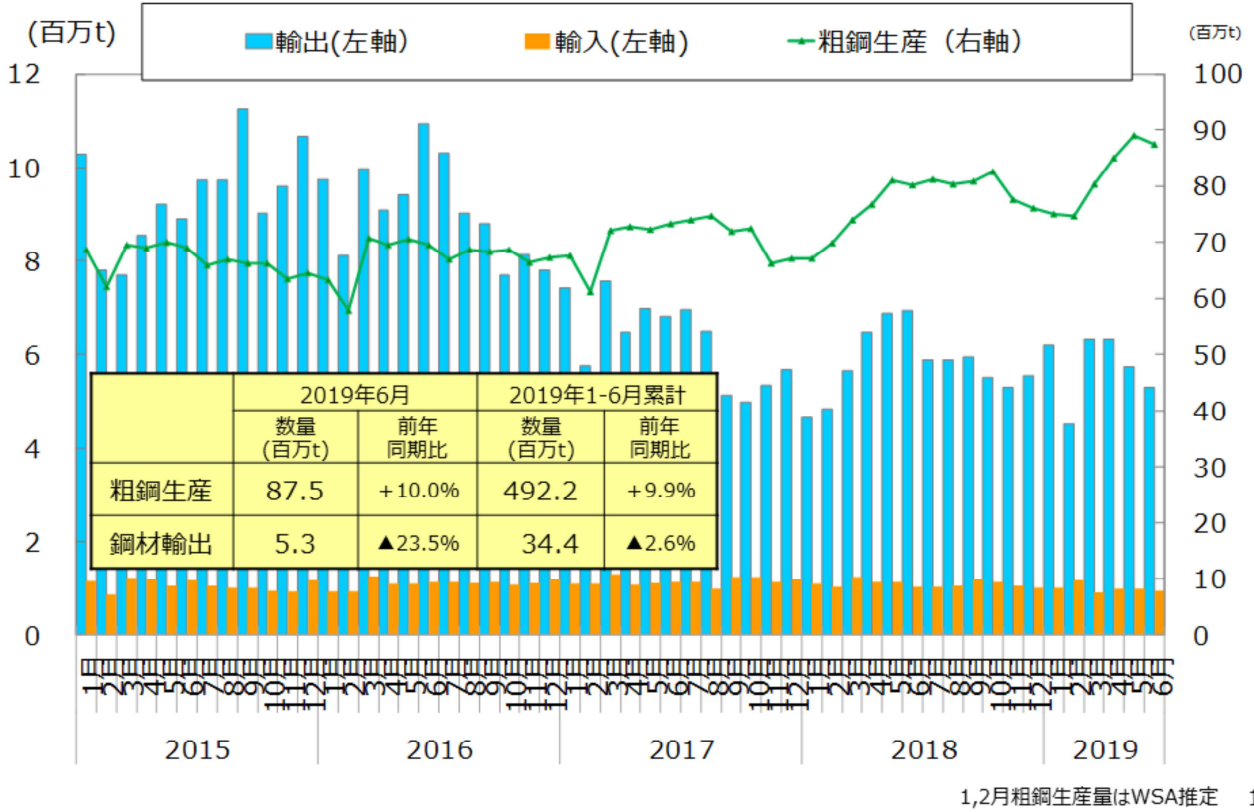
### 【中国鋼材市況推移】



※中国21都市平均価格



JFE



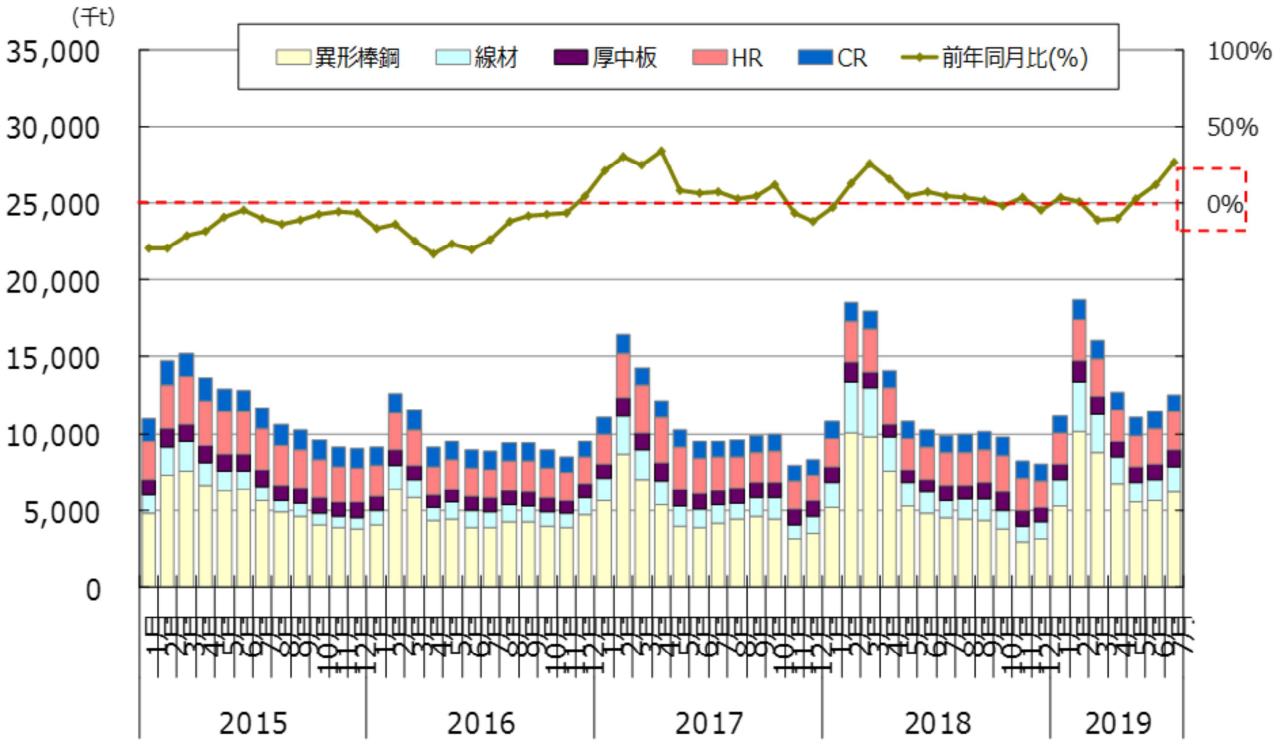
19年6月の中国粗鋼生産は、87.5百万 t（前月比▽1.6百万 t、前年同月比+7.3百万 t）、日当たり粗鋼生産量は2.92百万 t で過去最高を更新した。増産傾向に警戒が必要。

19年6月の中国鋼材輸出は、5.3百万 t（前月比▽0.4百万 t、前年同月比▽1.6百万 t）。

鋼材輸出は依然低位ではあるが、貿易摩擦の影響で製造業全般に内需の減速感があり、今後の鋼板類を中心とした輸出の動向には注意を払っていく必要がある。



JFE



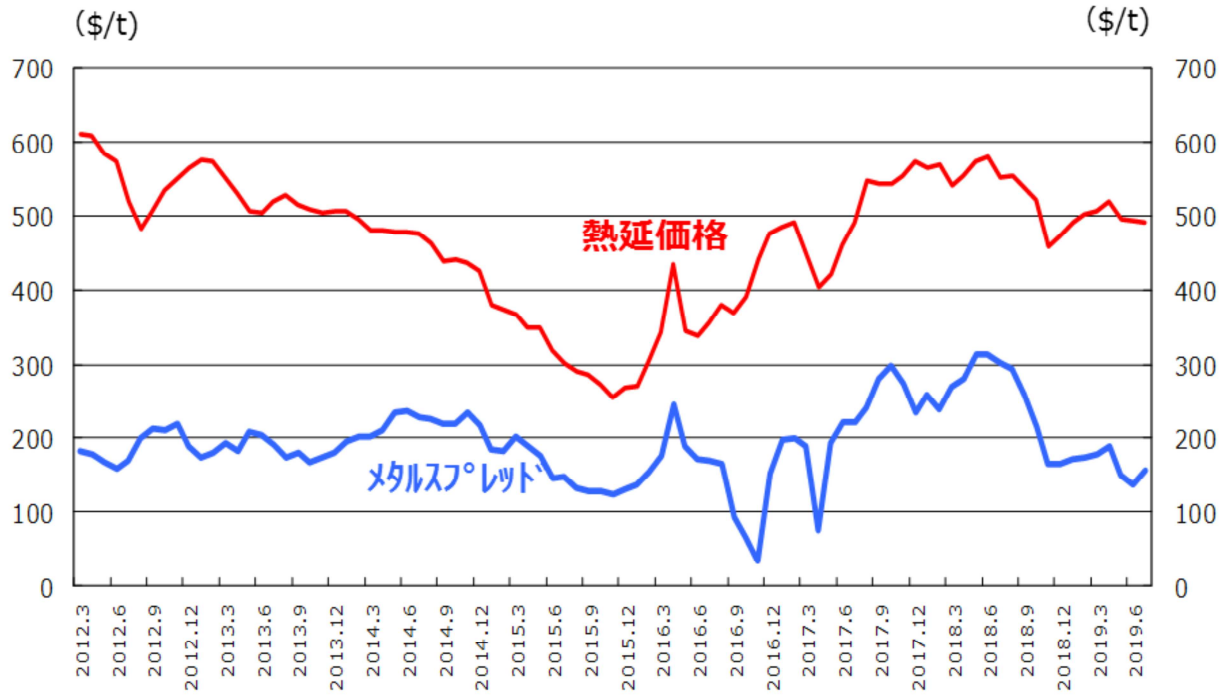
19

19年7月末の中国国内市中在庫は、約1,250万t（前月比+9.5%、前年同月比+26.6%）。

例年の季節パターン通り春節をピークとしてその後は減少を続けていたが、足下で下げ止まり反転基調へと変化している。例年より高い水準。粗鋼生産の動向とあわせて警戒が必要。



JFE



メタルスプレッド = 熱延価格 - 主原料コスト

※熱延価格：中国21都市平均価格、主原料コスト：粉鉱石、強粘炭国際スポット市況ベース

中国国内の熱延価格と国際スポット価格の主原料コストベースでのメタルスプレッドは、年明けから緩やかな回復傾向にあったが、貿易摩擦の影響等から熱延価格は再び軟化・調整の動きとなっている。

鉄鉱石市況の高騰によりメタルスプレッドは下落し、足下は揉み合いの状況が続いている。

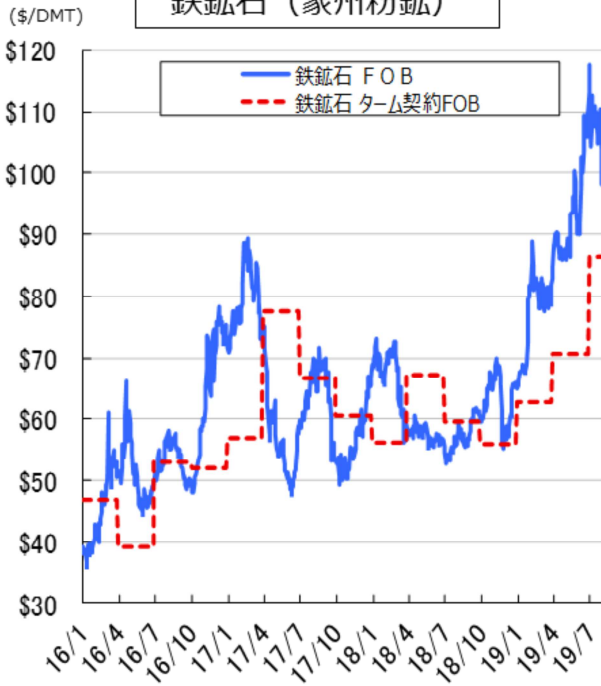
今後需要期に入っていく中でどこまで回復するか注視していく。



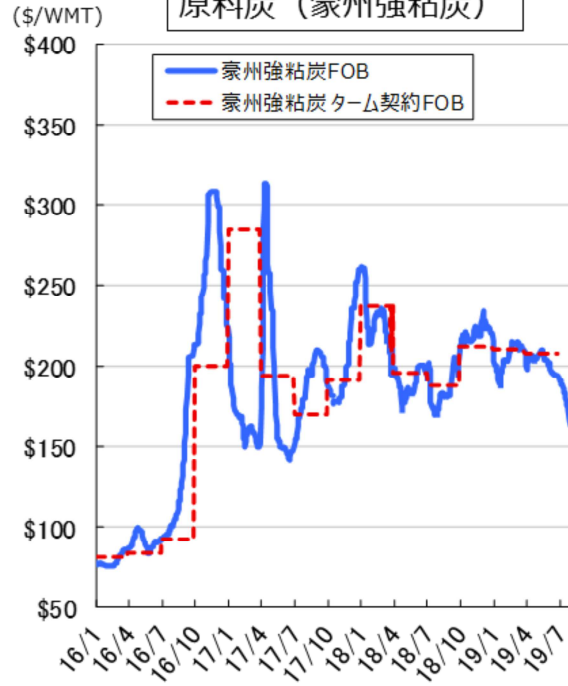
# 原料 主原料市況

JFE

### 鉄鉱石 (豪州粉鉱)



### 原料炭 (豪州強粘炭)



原料炭の17年4-6月期以降ターム契約FOBは、インデックス平均を記載  
 (4-6月期：3-5月平均、7-9月期：6-8月平均、  
 10-12月期：9-11月平均、1-3月期：12-2月平均)



JFE

	単位	2018年度 年間 実績	2019年度				
			4-6月 実績	7-9月 見通し	上期 見通し	下期 見通し	年間 見通し
売上収益	億円	28,306	6,666	7,334	14,000	15,000	29,000
セグメント利益	億円	1,613	145	115	260	440	700

前回 (5/14) セグメント利益 (年間) 見通し 1,050億円

単独粗鋼生産量	万 t	2,631	700	700程度	1,400程度	1,400程度	2,800程度
連結粗鋼生産量	万 t	2,788	736	730程度	1,470程度	\	
単独鋼材出荷量	万 t	2,378	585	640程度	1,220程度		
鋼材輸出比率 (単独・金額ベース)	%	41.7	39.9	42程度	41程度		
鋼材平均価格	千円/t	81.5	80.4	80程度	80程度		
為替レート	円/ドル	110.7	110.7	108程度	109程度	108程度	

## 2019年度 セグメント利益 前回⇒今回 ▲350億円内訳

JFEスチール	2019年度 前回	2019年度 今回	(億円) 増減 対前回
セグメント利益	1,050	700	▲ 350

■ コスト	± 0	
■ 数量・構成	▲ 200	
■ 販価・原料	▲ 180	⇒ 鉄鉱石市況の高騰、海外市況の低迷
■ 棚卸資産評価差等	+ 80	
■ その他	▲ 50	
<b>合計</b>	<b>▲ 350</b>	

19年度の年間セグメント利益は、5/14公表の見通しに対して、▲350億円の700億円の見通し。内訳は以下の通り。

◆数量・構成：▲200億円

粗鋼生産は、足下の需要動向、国内の在庫水準を踏まえた生産調整の実施と操業上のトラブルの影響により、前回公表の見通しに対し▲100万トンの年間2,800万トンとなる見通し。

粗鋼生産減▲100万t（2,900万t⇒2,800万t）

◆販価・原料（スプレッド）：▲180億円（≒鋼材トン当たり：▲700円）

主として鉄鉱石市況の高騰による。

◆棚卸資産評価差等：+80億円

主原料価格の上昇による棚卸資産評価益によりプラス

◆その他：▲50億円

主として海外グループ会社収益の減少（▲50億円）

## 2019年度 セグメント利益 対前年度 ▲913億円内訳

JFEスチール	2018年度 実績	2019年度 見通し	(億円) 増減 対前年度
セグメント利益	1,613	700	▲ 913

■ コスト	+ 600	⇒	コスト削減+380、18年度一過性影響なし+220
■ 数量・構成	+ 300		
■ 販価・原料	▲ 930		
■ 棚卸資産評価差等	▲ 320	⇒	棚卸資産評価差 ▲330 (+350→+20) 原料キャリーオーバー影響 +70 (▲10→+60) 為替換算差 ▲60 (+30→▲30)
■ 資材単価等	▲ 150	⇒	資材、物流、外注単価上昇等
■ その他	▲ 413	⇒	基盤整備推進に伴う償却費増、Gr会社等
<b>合計</b>	<b>▲ 913</b>		

24

19年度のセグメント利益は、前年度実績比で、▲913億円の700億円の見通し。内訳は以下の通り。

◆コスト：+600億円

西日本製鉄所の上工程をはじめとした投資効果の発現等により380億円のコスト削減を見込む。昨年度の操業トラブルによる一過性のコストアップ▲220億円の解消とあわせて、年間600億円のコスト削減を見込む。

◆数量・構成：+300億円

粗鋼生産増+169万t（2,631⇒2,800万t）

◆販価・原料（スプレッド）：▲930億円（≒鋼材トン当たり：▲3,700円）

18年度は鋼材需要・市況ともに堅調であったが、足下は国内外の鋼材需要に分野により減速感がみられ、加えて鉄鉱石市況も上昇したまま高止まりしている。鉄鉱石市況の上昇により市況の反転を想定するも、回復には一定の時間を要すと想定し、スプレッドの悪化を見込む。

◆棚卸資産評価差等：▲320億円

◆資材単価等：▲150億円（・資材▲50億円 ・物流費▲40億円 ・外注費▲50億円）

◆その他：▲413億円

- ・グループ会社収益の減少（▲200億円）
- ・基盤整備推進に伴う償却費増（▲100億円）
- ・資産廃却損の増加等



## 2019年度上期⇒下期 セグメント利益 +180億円内訳

JFEスチール	2019年度 見通し			(億円) 増減 2019上→下
	上期	下期	年間	
セグメント利益	260	440	700	+ 180

■ **コスト** + 140

■ **数量・構成** ± 0

■ **販価・原料** ▲ 30

■ **棚卸資産評価差等** + 190 ⇒

棚卸資産評価差 +220 (▲100→+120)  
原料キャリーオーバー影響 ▲60 (+60→±0)  
為替換算差 +30 (▲30→±0)

■ **その他** ▲ 120 ⇒

基盤整備推進に伴う償却費増等

**合計** + 180

19年度下期のセグメント利益は、上期見通し比で+180億円の440億円の見通し。内訳は以下の通り。

◆ コスト：+140億円

西日本製鉄所の上工程をはじめとした投資効果の発現等により140億円のコスト削減を見込。

◆ 数量・構成：±0億円

粗鋼生産±0万t (1,400⇒1,400万t)

◆ 販価・原料 (スプレッド)：▲30億円 (≒鋼材トン当たり：▲200円)

足下は国内外の鋼材需要に分野により減速感がみられる。一方で鉄鉱石市況は上昇したまま高止まりしている。鉄鉱石市況の上昇により市況の反転を想定するも、回復には一定の時間を要すと想定し、スプレッドの悪化を見込む。

◆ 棚卸資産評価差等：+190億円

◆ その他：▲120億円

- ・基盤整備推進に伴う償却費増 (▲70億円)
- ・海外グループ会社収益の減少 (▲30億円) 等。

# JFEエンジニアリング 2019年度 業績見通し



(億円)

	18年度実績		19年度見通し		増減 (対前年度)	
	上期※	年間	上期	年間	上期	年間
受注高	2,718	4,828	1,800	4,500	▲918	▲328
売上収益	2,021	4,858	2,300	5,200	+279	+342
セグメント利益	77	201	90	230	+13	+29

【主な増減要因(対前年度)】

受注高 ▲328 環境分野、エネルギー分野の大型案件の出件タイミング差  
 ※上期は、前年度に大型案件が集中した影響  
 売上収益 +342 前年度受注高拡大により増加  
 セグメント利益 +29 売上収益増により増加

※2018年度上期のIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります。



(億円)

分野	2018年度 実績	2019年度 見通し	増減	2019年度第1四半期 主な受注内容
環境	2,126	1,900	▲226	浄水場汚泥掻き機更新工事
エネルギー	1,328	1,100	▲228	地熱発電所設備更新工事 ガス幹線パイプライン
社会 インフラ他	1,374	1,500	+126	橋梁改築工事（首都高速）
合計	4,828	4,500	▲328	

JFE商事  
2019年度 業績見通し



# JFE商事 2019年度業績見通し

JFE

(億円)

	18年度実績		19年度見通し		増減 (対前年度)	
	上期※	年間	上期	年間	上期	年間
売上収益	5,706	11,258	5,530	12,000	▲176	+742
セグメント利益	193	357	150	360	▲43	+3

## 【主な増減要因（対前年度）】

米国・中国の需要減および米国市況の下落により上期は減収減益を見込むも、国内の堅調な需要を捕捉し年間セグメント利益はほぼ横ばいの見通し。

※2018年度上期のIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります。

JFEホールディングス  
2019年度 業績見通し



JFE

(億円)	2018年度実績		2019年度見通し		増減	
	上期※	年間	上期	年間	上期	年間
売上収益	18,923	38,736	18,700	39,600	▲223	864
<b>事業利益</b>	<b>1,546</b>	<b>2,320</b>	<b>550</b>	<b>1,400</b>	<b>▲996</b>	<b>▲920</b>
金融損益	▲62	▲125	▲50	▲150	12	▲25
セグメント利益	1,484	2,195	500	1,250	▲984	▲945
個別開示項目	–	▲102	–	–	0	102
税引前利益	1,484	2,093	500	1,250	▲984	▲843
税金費用・ 非支配持分帰属当期利益	▲396	▲458	▲150	▲350	246	108
親会社の所有者に帰属する 当期利益	1,088	1,635	350	900	▲738	▲735

前回 (5/14) 事業利益 (年間) 見通し 1,800億円

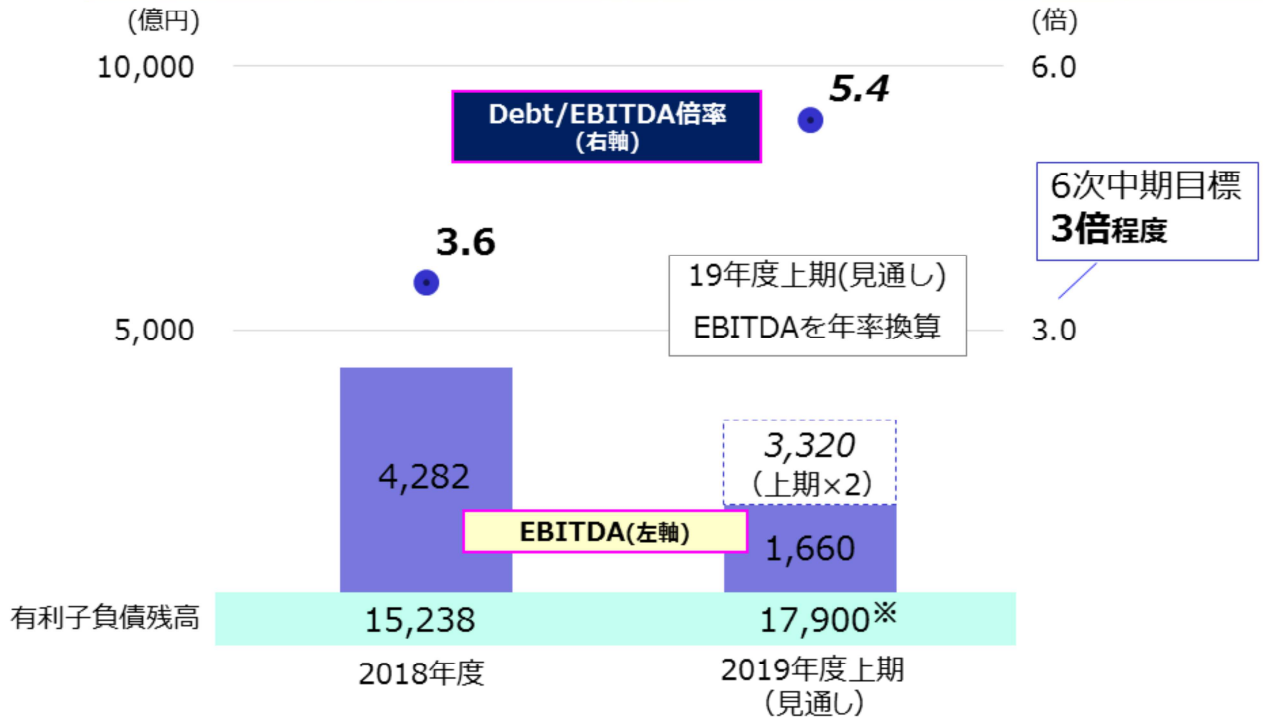
※2018年度上期のIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります。





# Debt/EBITDA倍率の推移

JFE



※19年度よりIFRS第16号「リース」を適用したことによる影響1,057億円(期首増加額)を含む

■ EBITDA = 事業利益 + 減価償却費及び償却費

■ Debt/EBITDA倍率 = 有利子負債残高/EBITDA



収益環境が悪化する中、財務健全性維持に向け以下の項目を検討

①資産圧縮

- ・棚卸資産在庫削減
- ・保有株式売却

(参考：2015～2018年度で2,400億円資産圧縮)

②設備投資・投融資の見直し

- ・投資内容精査、優先順位付け、効率化等

(参考：6次中期計画 総投資額 1兆2,000億円規模)

# 配当について



- 当期の中間配当については、1株当たり20円とする方針を取締役会において決議いたしました。
- 期末の配当については、今後、業績動向を見極めつつ検討することとしており、未定としております。

# トピックス



<ドイツ> 大型ガス炊きボイラを受注

- ▶ スタンダードケッセル・バウムガルテ (SBG) 社がBP社の保有するルール製油所のガス炊きボイラを約100億円にて受注
- ▶ SBG社は欧州中心に100件以上のボイラ建設実績があり、燃焼技術に関して高い評価

<メキシコ> 鋼材加工センター「JSSB」の設立

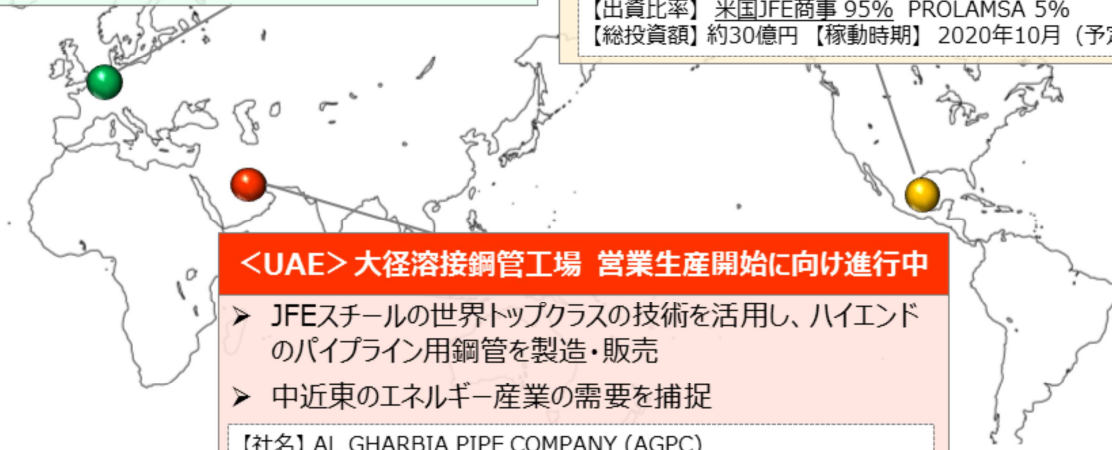
- ▶ メキシコ大手鋼管メーカーPROLAMSA社と鋼材加工・販売の合併会社を設立
- ▶ NJSM※製品の付加価値向上への貢献と、伸長する需要の捕捉を行う※NUCOR JFE STEEL MEXICO

【社名】 JFE Shoji Steel Service Center Bajio  
 【出資比率】 米国JFE商事 95% PROLAMSA 5%  
 【総投資額】 約30億円 【稼動時期】 2020年10月 (予定)

<UAE> 大径溶接鋼管工場 営業生産開始に向け進行中

- ▶ JFEスチールの世界トップクラスの技術を活用し、ハイエンドのパイプライン用鋼管を製造・販売
- ▶ 中近東のエネルギー産業の需要を捕捉

【社名】 AL GHARBIA PIPE COMPANY (AGPC)  
 【出資比率】 JFEスチール27% SENAAT 51% MISI 22%  
 【総投資額】 約300百万米ドル 【生産能力】 約24万トン/年



# ESG課題への取り組み



JFEホールディングスは19年5月に、  
**TCFD※最終報告書の趣旨に対する賛同を表明**



TASK FORCE ON  
CLIMATE-RELATED  
FINANCIAL  
DISCLOSURES

※金融安定理事会(FSB)が設置した  
「気候関連財務情報開示タスクフォース」

気候変動問題への対応を極めて重要な経営課題の1つと捉え、  
持続的な成長を支えるためのリスクと機会への対応について、  
情報開示を進めていきます。

- ホールディングス取締役会において気候変動問題を含むESG課題を審議し、  
取り組みへの進捗状況を監督
- 今後の対応等の詳細については、以下の媒体にて本年秋に開示予定
  - ・『JFEグループレポート2019(統合報告書)』
  - ・『CSR報告書2019』





JFE

□ 水資源の確保・・・製鉄プロセスでは大量の淡水が必要

➡ 製鉄所では約94%の水資源を再利用

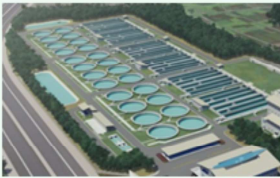
□ 水害への備え・・・製鉄所の排水能力を超える豪雨のリスク

➡ 従来よりリスク抽出と評価を行い対策を実施。  
これまでの想定を上回るような水害リスクに対する備えを強化。\*

※18年7月の西日本豪雨を受け、西日本製鉄所の想定降雨量の見直し、および災害対策費用(約50億円)の投入を迅速に決定し、工事を実行中

□ 水資源の活用と防災に貢献する多様な商品

【水処理プラント (JFEエンジニアリング)】



ハノイ市下水処理場

新興国の経済発展に伴う  
水質汚濁問題への対応な  
ど、水資源の活用に貢献

【地すべり抑止杭 (JFEスチール)】



高強度の鋼管杭を使用  
することで、地すべり災害  
の発生を抑止

# 参考資料



# 主な財務関連データ

**JFE**  
 【日本基準】

年度	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18
<b>【主要財務指標】(億円、%、倍)</b>							
経常利益	522	1,736	2,310	642	847	2,163	2,211
EBITDA ※1	2,606	3,689	4,215	2,544	2,799	3,888	4,059
ROS ※2	1.6%	4.7%	6.0%	1.9%	2.6%	5.9%	5.6%
ROE ※3	2.7%	6.3%	7.7%	1.8%	3.7%	7.6%	8.3%
ROA ※4	1.6%	4.5%	5.5%	1.7%	2.3%	5.2%	5.1%
借入金・社債等残高(期末)	15,963	15,340	15,017	13,793	13,754	13,309	14,499
Debt/EBITDA倍率 ※5	6.1倍	4.2倍	3.6倍	5.4倍	4.9倍	3.4倍	3.6倍
D/Eレシオ ※6	76.9%	67.9%	59.0%	56.9%	51.4%	58.1%	62.0%
<b>【1株当たり情報】(円/株、%)</b>							
親会社株主に帰属する当期純利益	71.2	177.4	241.6	58.4	117.8	250.8	285.0
配当金	20	40	60	30	30	80	95
配当性向	28.1%	22.5%	24.8%	51.4%	25.5%	31.9%	33.3%

## 【日本基準】

- ※1 EBITDA: 経常利益+支払利息+減価償却費  
 ※2 ROS: 経常利益/売上高  
 ※3 ROE: 親会社株主に帰属する当期純利益/自己資本  
 ※4 ROA: (経常利益+支払利息)/総資産  
 ※5 Debt/EBITDA倍率: 借入金・社債等残高/EBITDA  
 ※6 D/Eレシオ: 借入金・社債等残高/自己資本  
 但し、格付け評価上の資本性を持つ負債について、格付機関の評価により資本に算入

【IFRS】

見直し

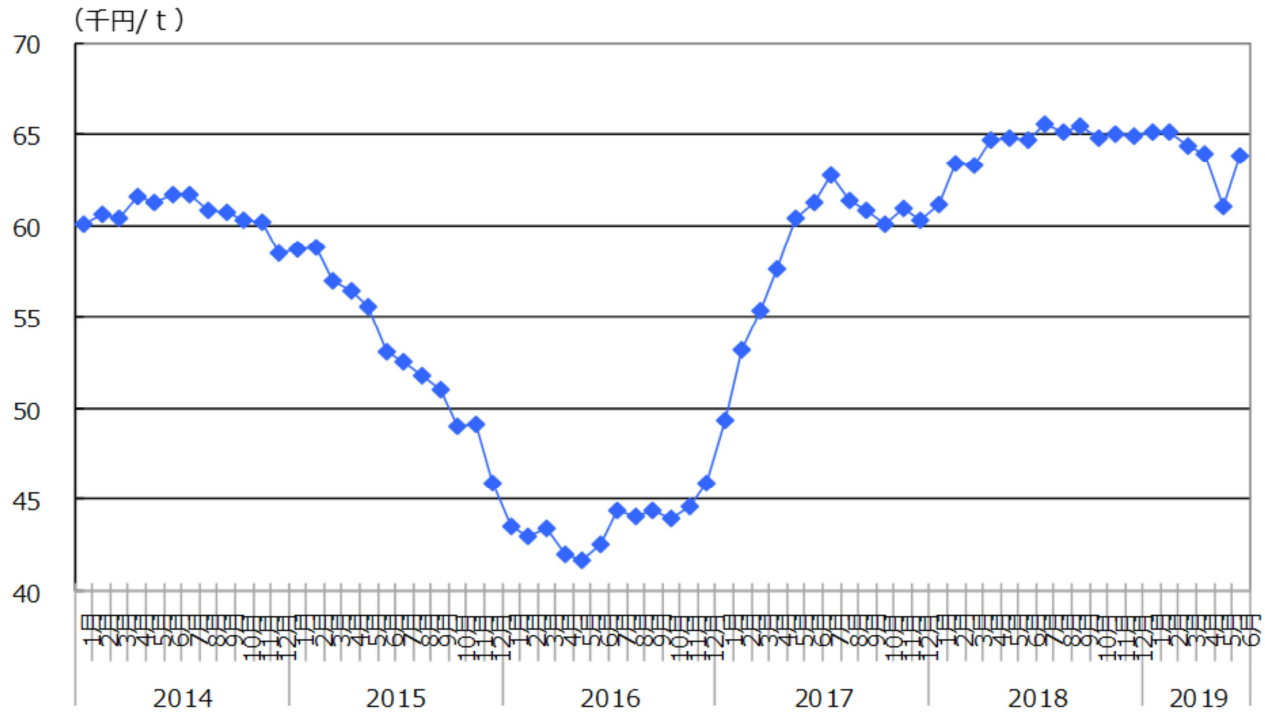
年度	'18	19上
<b>【主要財務指標】(億円、%、倍)</b>		
事業利益	2,320	550
EBITDA ※1	4,282	1,660
ROS ※2	6.0%	2.9%
ROE ※3	8.6%	3.6%
ROA ※4	5.0%	2.3%
有利子負債残高(期末)	15,238	17,900
Debt/EBITDA倍率 ※5	3.6倍	5.4倍
D/Eレシオ ※6	68.2%	81.0%
<b>【1株当たり情報】(円/株、%)</b>		
親会社の所有者に帰属する当期利益	283.8	60.8
配当金	95	(予定) 20
配当性向	33.5%	32.9%

## 【IFRS】

- ※1 EBITDA: 事業利益+減価償却費及び償却費  
 ※2 ROS: 事業利益/売上収益  
 ※3 ROE: 親会社の所有者に帰属する当期利益/親会社の所有者に帰属する持分  
 ※4 ROA: 事業利益/資産合計 (19上期のROE、ROAは年率換算)  
 ※5 Debt/EBITDA倍率: 有利子負債残高/EBITDA (19上期のEBITDAは年率換算)  
 ※6 D/Eレシオ: 有利子負債残高/親会社の所有者に帰属する持分  
 但し、格付け評価上の資本性を持つ負債について、格付機関の評価により資本に算入



JFE

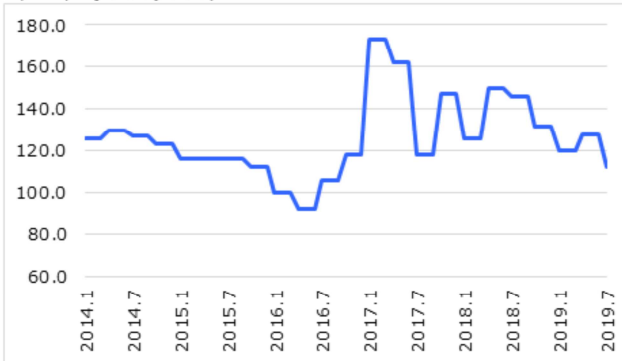


日本鉄鋼連盟データより作成 (韓国から輸入の熱延広幅帯鋼)



JFE

(¢/lb) フェロクロム



(US\$/t) 亜鉛



(US\$/t) フェロマンガン



(US\$/lb) モリブデン



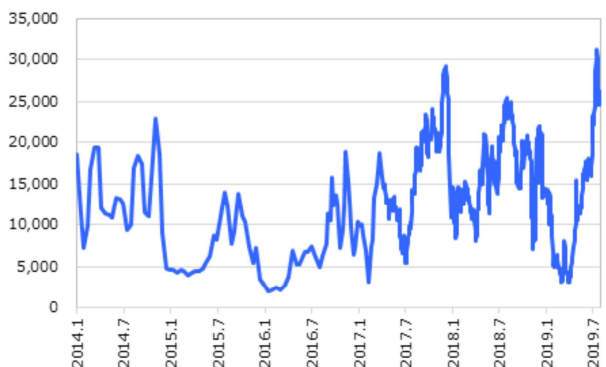


JFE

(円/t) スクラップ市況



(\$/B) スポット備船市況



成約運賃指数

(公社) 全日本トラック協会データより作成

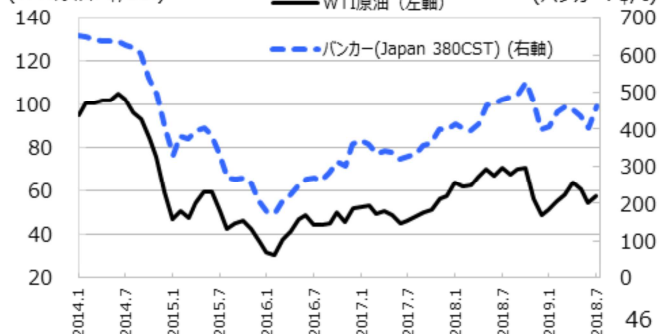
(2014年1月 = 100)



原油・バンカー市況

(WTI原油: \$/bbl)

(バンカー: \$/t)



JFEスチール	2018年度 上期 (実績) ※	2019年度 上期 (見通し)	(億円) 増減 2018上 →2019上
セグメント利益	1,173	260	▲ 913

- コスト + 180
- 数量・構成 + 30
- 販価・原料 ▲ 550
- 棚卸資産評価差等 ▲ 230
- その他 ▲ 343

⇒  
棚卸資産評価差 ▲300 (+200→▲100)  
原料キャリーオーバー影響 +150 (▲90→+60)  
為替換算差 ▲80 (+50→▲30)

**合計 ▲ 913**

※2018年度上期のIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります。

19年度上期のセグメント利益は、前年同期実績比で▲913億円の260億円の見通し。内訳は以下の通り。

◆コスト：+180億円（コスト削減+150億円、18年度一過性影響の戻り+30億円）

◆数量・構成：+30億円

前年上期は荒天影響で出荷が下期にずれ込んだ影響等あり、粗鋼は微減も出荷は14万tの増加。  
粗鋼生産▲4万t（1,404⇒1,400万t）、出荷+14万t（1,206⇒1,220）

◆販価・原料（スプレッド）：▲550億円（≒鋼材トン当たり：▲4,800円）

主原料価格の上昇と海外市況の低迷によりスプレッドが縮小。

◆棚卸資産評価差等：▲230億円

◆その他：▲343億円

- ・基盤整備推進に伴う償却費・廃却損の増加（▲50億円）
- ・資材・物流・外注費単価上昇等（▲100億円）
- ・グループ会社収益の減少（▲150億円）等

JFEスチール	2018年度 下期 (実績) ※	2019年度 上期 (見通し)	(億円) 増減 2018下 →2019上
セグメント利益	440	260	▲ 180

- コスト + 280
- 数量・構成 + 270
- 販価・原料 ▲ 350
- 棚卸資産評価差等 ▲ 280
- その他 ▲ 100

棚卸資産評価差 ▲250 (+150→▲100)  
原料キャリーオーバー影響 ▲20 (+80→+60)  
為替換算差 ▲10 (▲20→▲30)

**合計 ▲ 180**

※2018年度下期のIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります。

19年度上期のセグメント利益は、18年度下期実績比で▲180億円の260億円の見通し。内訳は以下の通り。

◆コスト：+280億円（コスト削減+90億円、18年度の一過性影響の戻り+190億円）

◆数量・構成：+270億円

18年度の操業トラブルの解消により粗鋼・出荷ともに回復

粗鋼生産+173万t（1,227⇒1,400万t）、出荷+48万t（1,172⇒1,220万t）

◆販価・原料（スプレッド）：▲350億円（≒鋼材トン当たり：▲2,800円）

鉄鉱石価格の上昇と海外市況の低迷によりスプレッドが縮小。

◆棚卸資産評価差等：▲280億円

◆その他：▲100億円

グループ会社収益の減少（▲110億円）等





JFEスチール	2019年度 見通し			増減 4-6月→ 7-9月
	4-6月 実績	7-9月 見通し	上期 見通し	
セグメント利益	145	115	260	▲ 30

- コスト + 30
- 数量・構成 + 30
- 販価・原料 ▲ 110
- 棚卸資産評価差等 + 90
- その他 ▲ 70

⇒ 棚卸資産評価差 +20 (▲60→▲40)  
原料キャリーオーバー影響 +40 (+10→+50)  
為替換算差 +30 (▲30→±0)

合計 ▲ 30

19年度7-9月のセグメント利益は、4-6月実績比で、▲30億円の115億円の見通し。内訳は以下の通り。

◆コスト：+30億円

◆数量・構成：+30億円

粗鋼生産は横ばいも出荷増によりプラス

粗鋼生産±0万t (700⇒700万t)、出荷+55万t (585⇒640万t)

◆販価・原料 (スプレッド)：▲110億円 (≒鋼材トン当たり：▲1,700円)

主として鉄鉱石価格の上昇による影響でスプレッドが悪化する。

◆棚卸資産評価差等：+90億円

◆その他：▲70億円

・受取配当金の季節差 (▲70億円)

・償却費増 (▲10億円) 等



(参考) 2018年度1-3月 ⇒ 2019年度4-6月

JFEスチール

セグメント利益 +163億円内訳

JFE

JFEスチール	2018年度					2019年度	増減 1-3月 →4-6月
	4-6月	7-9月※	10-12月※	1-3月※	年間	4-6月	
セグメント利益	641	532	458	▲18	1,613	145	+163

- コスト + 130
- 数量・構成 + 160
- 販価・原料 ▲ 20
- 棚卸資産評価差等 ▲ 160
- その他 + 53

棚卸資産評価差 ▲100 (+40→▲60)  
 原料キャリーオーバー影響 ▲50 (+60→+10)  
 為替換算差 ▲10 (▲20→▲30)

**合計 + 163**

※2018年度7-9月、10-12月、1-3月のIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります。

50

19年度4-6月のセグメント利益は、18年度1-3月実績比で+163億円の145億円となった。内訳は以下の通り。

◆コスト+130億円 (コスト削減+40億円、18年度一過性影響の戻り+90)

◆数量・構成：+160億円

18年度の操業トラブルの解消により粗鋼・出荷ともに回復

粗鋼生産+112万t (588⇒700万t)、出荷+38万t (548⇒585万t)

◆販価・原料 (スプレッド)：▲20億円 (≒鋼材トン当たり：▲300円)

鉄鉱石価格の上昇によりスプレッドが縮小。

◆棚卸資産評価差等：▲160億円

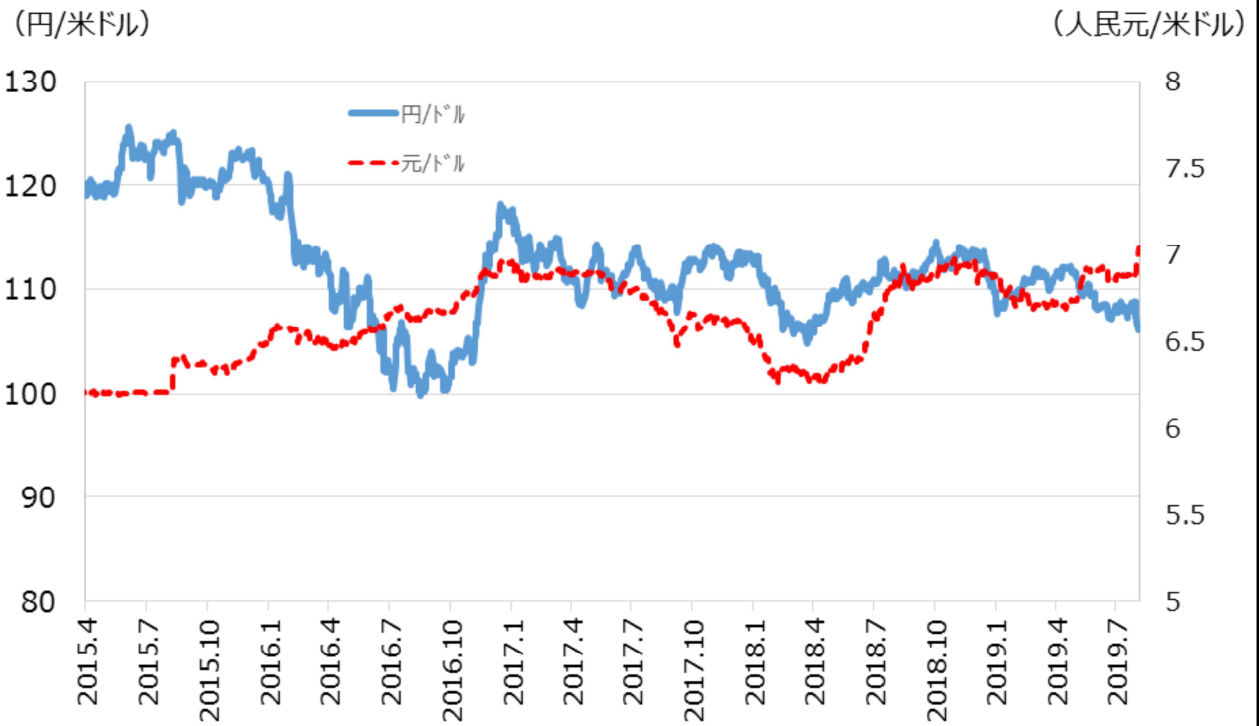
◆その他：+53億円

受取配当金 (+50億円) 等の季節要因。



# 為替レート推移（日本円/米ドル、人民元/米ドル）

JFE





**JFE**

Copyright © 2019 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved

本資料の無断複製・転載・webサイトへのアップロード等はおやめ下さい